

### 部落解放・人権研究所とは・・・

「一般社団法人 部落解放・人権研究所」は、部落差別をはじめ一切の差別撤廃をめざした部落解放運動の中で生まれた政策研究機関です。国内外の差別や人権問題の解決に役立つ調査研究事業、人権人材育成事業、人権教育啓発事業、情報発信事業等に取り組んでいます。

### 入会案内

部落解放・人権研究所は、研究活動に賛同し、参加して下さる会員（個人会員）を募集しています。会員（個人会員）には「A会員」、「B会員」、「学生会員」があります。

【A 会員】 年会費 10,000円  
特典 紀要『部落解放研究』2冊、『ヒューマンライツ』12冊  
『研究所通信』4回

【B 会員】 年会費 7,000円  
特典 紀要『部落解放研究』2冊、『ヒューマンライツ』2冊  
『研究所通信』4回

【学生会員】 年会費 3,500円  
特典 紀要『部落解放研究』2冊、『ヒューマンライツ』2冊  
『研究所通信』4回

また、研究活動を支えて下さる賛助会員も募集しています。

【賛助会員】 年会費 50,000円  
特典 紀要『部落解放研究』2冊、『ヒューマンライツ』12冊  
『研究所通信』、『全国のあいつぐ差別事件』他



研究所通信 400号 2015年7月1日 (奇数月1日発行)

発行所 (一社) 部落解放・人権研究所

編集発行人 奥田 均

〒552-0001 大阪市港区波除4-1-37 HRCビル8階

TEL (総務部) 06-6581-8530

(調査・研究部) 06-6581-8572

(啓発企画部) 06-6581-8576

FAX 06-6581-8540

URL <http://blhrrri.org>

定価 100円 (送料込: 会員は会費に含む)

振替口座 大阪 00970-6-3183



### 高野山開創1200年記念 萬民平等差別戒名追善法会参加

2015年5月7日  
高野山伽藍金堂にて



### 部落解放・人権研究所定時(第4回)総会

2015年6月10日 会場 大阪人権博物館



長年、解放大学の助言者をつとめて  
いただいた塩谷幸子さんに  
感謝状贈呈

2015年6月10日 第4回総会にて

### もくじ

研究部門紹介 第三研究部門	2	第46回高野山夏期講座	9
総会開催/大阪で人権啓発研究集会決定	4	人権啓発東京講座開催ほか	10
大量差別ピラ配布事件発生	5	おしごと興業さん紹介	11
塩谷さん解放大学助言者勇退	6	海外研究者よりメッセージ	12
解放大学109期新助言者紹介	7	同対審答申50年	14
マスコミ人権懇話会開催	8	参加者募集・その他お知らせ	15

## 研究部門の活動紹介

### 第三研究部門（人権教育・啓発の調査研究）

現在、第三研究部門（部門長：森実・大阪教育大学教授）では、人権教育・啓発をめぐる今日の状況をふまえて、以下の3つの研究会（調査研究事業）を展開しています。その成果については、公開講座や紀要『部落解放研究』、各種講座・集会等で随時発信していきます。（棚田 洋平）

#### ● 識字・成人基礎教育研究会

当研究会では、大阪府内を中心に、日本国内の識字運動や成人基礎教育事業の実態と課題を把握・整理し、今後に向けての提言を行うことを目的としています。そのために、国内外の研究や政策をフォローしたり、実態調査を実施したりします。

具体的には、①大阪市内の識字学級における資料収集と関係者へのインタビュー、②識字関連法案・政策のモニターと評価、③識字研究をめぐる国内外の動向の整理、④識字・日本語連絡会等運動に寄与する理論・研究の検討を行います。①については、大阪市内識字・日本語教室連絡会と連携しながら調査を実施しています。くわえて、「全国識字学級実態調査」（2010年）以降の識字学級の現況を把握するために、大阪府内の識字学級を対象にした質問紙調査ならびに教室訪問調査を今年度中に実施する予定です。

メンバー：森実（大阪教育大学教授）、岩槻知也（京都女子大学教授）  
上杉孝實（京都大学名誉教授）、菅原智恵美（大阪市立大学大学院生）  
新矢麻紀子（大阪産業大学教授）、小原武次郎（兵庫県中学校教員）  
山田隆造（にほんご・なんばスタッフ）、熊谷愛（解放新聞社職員）  
棚田洋平（部落解放・人権研究所研究員） 他

#### ● 若者の生活とリテラシー研究会

今日の日本社会においては、フリーターやニート、ひきこもり等の「若者問題」を、格差・貧困と関連づけて捉える必要性がますます高まっています。そうした中、「困難を有する」子ども・若者への支援が喫緊の課題とされています。

そのような背景のもと、当研究会では、「リテラシー（literacy）」という概念に着目し、社会的に困難を有する若年者の実態と、その支援のあり方について調査研究を進め

ています。具体的には、更生保護施設、自主夜間中学、公立夜間中学、識字学級、地域若者サポートステーション、フリースクールといった、困難を有する若年者への支援を実践している団体・組織を対象にして、支援者ならびに被支援者（困難を有する若年者）の聞き取り調査を実施してきました。あわせて、国内外における若年者支援や成人基礎教育に関する制度・施策、実践の動向や、PIAAC（国際成人力調査）の結果等も踏まえて、聞き取り調査の内容を整理しています。

なお、当研究会は、科学研究費事業（「社会的困難を有する若年者のリテラシー実態とその支援に関する実証研究」2013-15年度）として実施しており、今年度はその成果のとりまとめを行います。

メンバー：岩槻知也（京都女子大学教授）、上杉孝實（京都大学名誉教授）  
松下一世（佐賀大学教授）、添田祥史（福岡大学准教授）  
知念渉（大阪大学助教）、藤根雅之（大阪大学大学院生）  
棚田洋平（部落解放・人権研究所研究員）

#### ● ソーシャルワークと教育研究会

当研究会では、近年「子どもの貧困対策」や「いじめ対策」の文脈で着目され、国の事業としても展開されようとしているソーシャルワークの実践と機能について、同和・人権教育との関連で整理・検討することを目的としています。福祉教員や同和教育主担等のはたらきは、今日でいうソーシャルワーク的な機能を果していたと考えられますが、そのことに関する調査研究は限られています。他方で、学校教育の現場においては、人権・同和教育の理念と実践について、次世代の教職員へ継承していくことが喫緊の課題とされています。

そこで、当研究会では、国内外におけるソーシャルワークの理念・実践と、人権・同和教育で培われてきた理念・実践との比較や検討をとおして、ソーシャルワークと教育との関係性・関連性について整理します。具体的には、関連する国内外の文献を講読したり、関連施策・制度をフォローしたり、関係者—ソーシャルワーカー、同和・人権教育担当者（元教員／現役教員）、解放子ども会元指導員、関連するNPO職員等—への聞き取りを行ったりします。

メンバー：森実（大阪教育大学教授）、高田一宏（大阪大学准教授）  
西田芳正（大阪府立大学教授）、神村早織（大阪教育大学准教授）  
阿久澤麻理子（大阪市立大学教授）、長瀬正子（佛教大学専任講師）  
木村和美（滋賀短期大学特任講師）、棚田洋平（部落解放・人権研究所研究員）

## 第4回総会開催 2014年度事業報告ほか承認されました

当研究所は、去る6月10日(水)午後1時30分より大阪人権博物館にて定時(第4回)総会を開催しました。

定時総会は、奥田均代表理事の開会あいさつ、西島藤彦・部落解放同盟中央本部書記長からの来賓あいさつ後、①2014年度事業報告(案)、②2014年度会計決算報告(案)、③2014年度公益目的支出計画実施報告書について(案)、④2014年度監査報告、⑤2015年度事業計画(案)、⑥2015年度予算(案)、⑦2015年6月(定時総会)以降2017年6月(定時総会)までの役員体制(案)の7つの議案が2名の業務執行理事及び橋本監事より報告・提案が行われ、また、各議案毎に決議を行い、すべての議案が満場一致で可決承認され、定時総会は終了しました。

定時総会終了後、長年にわたり、部落解放・人権大学講座のカリキュラムの一つであります自己啓発学習の助言者を担って頂きました塩谷幸子さん(部落解放同盟大阪府連合会副委員長)が本年3月に修了しました第108期をもって助言者を勇退されましたことを報告しました。講座の核となる部分を担って頂くと共に多くの人権リーダーを育成して頂いたことに対して奥田代表理事より感謝状と記念品が授与され、塩谷さんよりごあいさつが行われました。

第2部は、「戦後70年と日本国憲法」と題して理事の谷口真由美さん(大阪国際大学)による記念講演が行われました。なお、記念講演の内容は月刊『ヒューマンライツ』8月号に掲載されますのでご一読ください。(松本 信司)

## 2016年2月、大阪で人権啓発集会開催を決定!

第30回人権啓発研究集会が20年ぶり3度目、大阪の地で開催されることになりました。5月22日、第30回人権啓発研究集会現地実行委員会が結成され、2016年2月4日(木)～5日(金)、大阪国際会議場(グランキューブ)において4,000人規模で開催することを確認、北口末廣現地実行委員長(部落解放同盟大阪府連合会執行委員長)をはじめとする役員体制が承認されました。

人権啓発研究集会は、(一社)部落解放・人権研究所と現地実行委員会が協働で開催します。初日の全体会では、太鼓演奏、地元大阪府連報告、記念講演、二日目は、「部落問題と人権」「外国人問題と人権」「障害者問題と人権」「性差別と人権」「病気と人権」「さまざまな差別」の6つの分科会を設定、フィールドワークやパネル展などの企画を実施することになりました。開催要綱は9月頃配布の予定です。

## 前代未聞の大量差別ビラ配布事件が発生

「こら部落民お前等牛殺しの仲間やろう」「わしら結婚を前提とした付き合いをやっている親が興信所で部落出身者かどうか調べて部落出身者だったら強制的に別れさせられるんや」「今でも差別はあるんや。此の部落差別は何十年立とうが何百年立とうが変わらんや。だから部落差別は当然なんや」

(原文ママ)などと書かれたビラが、架空の人物の名前、住所を騙って大阪の被差別部落内の住宅に大量に戸別投函されるといふ前代未聞の事件が発覚しました。

かつて1983年に福岡県内に戸建て住宅を購入した人物が購入後に住宅が被差別部落内にあることを知り、仲介をした不動産業者への抗議ビラを福岡市内や東京都内で合計59回、約5万枚もばらまくという事件がありました。しかし、差別ビラを堂々と被差別部落の中に入ってきて一軒ずつ投函する、それも大量に複数の被差別部落で行うという事件はいまだかつて記憶にありません。

差別ビラは戸別配布だけではなく郵送でも送られてきています。中には事前に部落解放同盟支部の事務所に電話で住所を確認してから送りつけてきたケースもあります。これまで差別行為は建前だけでも「社会的に許されない」といわざるを得ない状況がありましたが、京都朝鮮学校襲撃事件や水平社歴史博物館差別街宣事件などのヘイト・スピーチ(差別扇動)が後を絶たない中、差別行為が公然化し始めています。

ヒトラーが国防軍を掌握した1938年に、ホロコーストへのきっかけとなった「水晶の夜」事件が起きました。その後本格的にユダヤ人大量虐殺がはじまるまでの期間はわずか3年です。アウシュビッツの解放から70年、私たちが忘れてはならない歴史です。

大量差別ビラ配布事件は現在も続いています。自分たちの町では絶対に配布させないという取り組み、発覚した自治体はもちろん、地区内外の住民による強い抗議などの取り組みで差別の芽を摘み取らねばなりません。(谷川 雅彦)



## 塩谷幸子さんが解放大学の助言者を勇退

部落解放・人権大学講座（解放大学）の助言者を長く務められた塩谷幸子さん（部落解放同盟向野支部長・大阪府連執行副委員長）が2014年度をもって退任されました。塩谷さんには、1996年より解放大学の講師として、そして、2003年の89期からは自己啓発学習の助言者として実に19年の長きにわたって同講座を支えていただきました。今回、ご退任にあたってメッセージをいただきました。

89期ではじめて自己啓発学習の助言者を務めた当初、部落解放同盟という私の肩書を意識されて「本音で語っても大丈夫ですか」という受講生がいました。私は、対等な関係で、お互いの思いや経験を語り合い、接点を見いだすような場にしたいと伝え、一個人として私自身のおいたちも話してきました。



▲地域のフィールドワーク参加者にお話する塩谷さん

部落差別もそうですが、人の生き方、自分の生き方の問題として差別・人権問題を捉え、自身の中にある差別意識や人権意識と向き合うことが大切です。そうでなければ差別・人権問題は他人事として通り過ぎてしまいます。「自分とは関係ない」「知らなかった」というのでは、自分も周りも変わりません。まず関心を持って、そして共感する立場で学んで欲しいものです。

企業や行政機関など、様々な所属の受講生との出会いは、部落解放運動にかかわって活動する私にとっても貴重なつながりを与えてくれました。人権の学びの場は、自分の財産づくりの場であると思います。解放大学ではいろんな人が自らの立場や経験について語ってくれました。重たいカミングアウトもありました。

これらの出会いとつながりを財産にして、私は自分の地域での活動にこれからも活かしていきたいと考えています。修了生をはじめ、いろんなご縁でつながる方達に、私たちがめざす「ぬくもりのまち」をフィールドワークなどで訪れてほしいと思います。それによって地元地域や周辺地域にもプラスになっています。機会がありましたら、ぜひお越し下さい。

(塩谷 幸子)

## 解放大学(109期)の新しい助言者をご紹介します

部落差別をはじめ様々な差別・人権問題についての体験や意識を見つめ、少人数で話し合う解放大学講座の自己啓発学習を支えていただく新しい助言者のお三方に自己紹介いただきました。

いなみつ たいら

**稲光 平さん** (大阪狭山市総務部人権広報グループ)

1994年から2002年まで障害者福祉を担当しましたが、その時の障がい者の方との関わりが人権についての思いを深めるきっかけとなりました。その後人権を担当して2013年に定年退職しましたが、今も囁託職員として人権行政に係わらせていただいています。行政に携わるものとして、人権について理解し気づくこと、さらに、それを日々の業務に役立てることの大切さを痛感しています。



いのうえ やすこ

**井上 泰子さん** (部落解放同盟北芝支部)

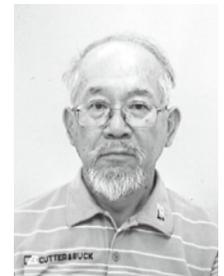


部落解放・人権大学講座第109期でお世話になります井上泰子です。大先輩の後継ということで、荷が重い気もしますが、助言というよりも、みなさんとともに学ばせていただくという気持ちで、有意義な時間を過ごしたいと思います。よろしくお願ひします。

たむら けんいち

**田村 賢一さん** (部落解放同盟富田林支部)

教科書無償闘争に取り組んだ高知市内の同和地区で生まれ、東京を経て、1971年より富田林市役所に勤務。児童館で働く中で地域の解放運動に参加。1974年、支部再建大会で支部役員になり、現在は支部長の任に就いています。1980年に府連執行委員、以降府連役員も兼務しています。解放大学1期生です。



## メディアにおける部落問題の扱い方を考える ～マスコミ人権懇話会（第4回）を開催～

部落問題や人権課題について、マスコミ関係者と部落解放運動関係者が共に学ぼうと、2013年より「マスコミ人権懇話会」が開催されています。

6月5日(金)、AIAIおおさかにて、「部落問題とメディアについて思うこと」と題して、ノンフィクションライターの角岡伸彦さんを講師に招いて第4回目の懇話会が開催されました。

角岡さんは加古川市の被差別部落で生まれ、大学卒業後、神戸新聞記者を経て、現在はノンフィクションライターとして、部落問題のみならず、様々なテーマでの執筆、発信をされています。

自己紹介の後、部落問題に関わる映画や部落出身者の出自をとりあげた週刊誌記事、自身も取材し執筆した「飛鳥会事件」(2009年)、最近では、滋賀県が作成した同和対策事業の資料公開について争われた訴訟など、それぞれの事件に対して感じたことなどをふりかえりながら、部落解放運動とメディアに思うことが語られました。

たとえば「狭山事件」を知らないなど、マスコミ関係者に部落問題が十分理解されておらず、関心も薄れているのではないかとの提起がありました。

また、メディアは部落問題などタブー視して扱わなかったり、反対に人の出自などを興味本位で扱うのではなく、リアリティをもって問題を伝え、考えてもらうことが必要ではないか。部落問題にかかわらず、名前や地名を出す意味はあり、その意味を考えていくべきとの提起もありました。

大阪府内のいくつかの部落の太鼓集団で構成されるグループがイギリスの太鼓フェスティバルに参加し、反差別の思いを表現しようとしているなど、面白いイベントや活動がある。自身も数少ない部落問題の書き手として、「これからも面白い話、面白い人、面白い部落を伝えていきたい」と、お話を終えました。  
(川本 和弘)



お話すの角岡さん

### 角岡 伸彦さんのブログ

五十の手習い フリーライター奮戦&炎上記  
<http://kadookanobuhiko.tumblr.com/>  
(プロフィールや著書一覧も掲載されています)

## 第46回高野山夏期講座2015 部落解放・人権夏期講座

- 日 時 8月19日(水)～8月21日(金)
- 参加費 7,500円
- 会場 高野山大学松下講堂黎明館、高野山会館ホールほか
- 主催 部落解放・人権夏期講座実行委員会
- 問合せ先 (一社) 部落解放・人権研究所 啓発企画部  
TEL.06-6581-8576 FAX.06-6581-8540  
Email koyasan46@blhrrri.org
- 宿泊に関する申込・問合せ先  
株式会社ジョイックス (大阪府知事登録旅行業第2種1558号)  
TEL.06-6390-3400 FAX.06-6390-0394

\*詳細は部落解放・人権研究所のウェブサイトをご覧ください。

### 【内容一覧】

#### 8月19日(水)

長編記録映画「人間みな兄弟～部落差別の記録」

シンポジウム「同対審答申を読む」

全体講演 「生活困窮者自立支援法と助けてといえる人権のまちづくり」

「ブラックバイトと大学生！～学生ユニオンはじめました～」

#### 8/19～/21

パネル展

「同和対策審議会」答申50年  
～部落差別をなくす半世紀の歩み～

#### 8月20日(木)

講演 「入門部落問題～部落差別のとらえ方」「居場所を失う青少年」

「国際男女平等ランキングで日本はなぜ105位なのか」「マイナンバー制度の問題」

「2020東京オリンピック・パラリンピックとアクセシビリティ」

「LGBTが直面する困難の視えにくさと、法整備の必要性」

「企業と人権-変化する内外情勢をふまえて」「大阪市のヘイトスピーチ対策を読み解く」

「セクハラ・パワハラ問題入門」「アイヌ女性の苦難の歴史、実態調査を実施して」

「部落差別と向き合う私たち」「同和地区所在地情報の開示をめぐる」

シンポジウム「障害者差別と合理的配慮を考えるシンポジウム」

「ヘイトスピーチの法規制にむけて～実現に向けた論点を探る」

フィールドワーク「高野山開創1200年の歴史 ～平等と差別を中心に～」

映画の夕べ 『標的の村』

#### 8月21日(金)

全体講演 「水平社宣言をユネスコ記憶遺産に」「ひきこもりの未来」

高野山開創1200年記念 夢のしらべコンサート in 高野山

## 第28回 2015年度 人権啓発東京講座を開講します

期間 9月30日(水)～11月26日(木)の12日間

定員 50名(先着順) 受講料 150,000円+消費税

もしかして、あなたの人権感覚はズレてる？

21世紀は「人権の世紀」です。今一度、あなたの人権感覚をみがいてみませんか。

### 多様性あふれるテーマ、充実の講師陣！

様々な人権問題をとりあげている基礎講座です。各分野の第一線で活躍している総勢23名の人権スペシャリストたちの講義は、問題の基本を押さえつつ、最先端の話が聞ける貴重な経験です。

### 体験と交流をとおして、ゆたかな人権感覚を！

3カ所の現地学習(フィールドワーク)や体験学習(ワークショップ)、班ごとのふりかえり(グループディスカッション)等をとおして問題意識を深め、ゆたかな人権感覚を目標めさせます。

### あなたも人権リーダーに！

講座修了後には、あなたの人権感覚は、きっと生まれ変わっていることでしょう。講座で学んだことを職場や暮らしの中で大いに役立ててください。

プログラムや講師一覧、受講申し込みなどを記載した開催要項(パンフレット)がご入用の場合は、(一社)部落解放・人権研究所 啓発企画部 人権啓発東京講座事務局までお知らせください。  
(TEL.06-6581-8576 FAX.06-6581-8540 E-mail tokyo28@blhrrri.org)  
また、PDF版は研究所のウェブサイトダウンロードできます。

## 研究所のたからもの《啓発用資料紹介》vol.2

### 入門・ビジュアル教材「部落解放運動の歩み 人間は尊敬すべきもの」

部落解放運動の歩みを分かりやすく解説するDVDです。部落問題の入門的な教材として学校、市民啓発、企業研修、市民活動、解放運動など多様な場で使えます。部落解放・人権研究所編『部落解放運動の歩み100項ビジュアルブック』(2011年、解放出版社)も合わせて活用できます。

DVD/60分 3部構成・各20分(全編字幕入り)

戦前編…水平社の運動

戦後編Ⅰ…部落解放運動の再出発

戦後編Ⅱ…部落解放に向けた新たなステージ

使用の手引き付き 10,000円+税

企画・制作:社団法人部落解放・人権研究所

製作:ビデオ工房 AKAME



お求めは 総務部販売担当まで (TEL.06-6581-8619 human@blhrrri.org)

## “しごとづくり”で“まちづくり” おしごと興業合同会社さんをご紹介します。

研究所の社会貢献として2015年4月から研究所が発行する冊子などの発送や各種集会のアンケートの集計作業などを社会的企業「おしごと興業合同会社」に委託しています。

「社会的企業とは？」おしごと興業さんの事業を通してご報告します。

「おしごと興業合同会社」は、一般財団法人八尾市人権協会の構成メンバーを中心に、2009年に設立した「社会的企業」です。障害者、同和地区出身者、外国にルーツを持つ市民、ひとり



月刊ヒューマンライツの発送作業を行っています。

親家庭、中高年者など、就労・社会参加に困難を有する人々に焦点を当て、それぞれのニーズや状況に寄り添いながら社会

参加・就労機会の確保や中間的就労支援の現場づくりなど、「しごとづくり」で「まちづくり」を目指しています。2010年4月から、「都市公園久宝寺緑地指定管理共同体」の構成団体として、府営久宝寺緑地公園の指定管理者となりました。2011年6月から、同公園の清掃作業等を活用した中間的就労支援事業、「とらんぼりん事業」を開始。10代後半から60代後半まで、様々な事情を抱える、のべ約60人の参加者とともに、取り組んできました。2014年には、就労支援やまちづくり

を行うNPOや、近畿大学と協働し、チャレンジカフェ「ふらここ」をオープ



清掃作業の様子

ン。新たな中間的就労支援の現場として活用するとともに、地域の情報発信や、まちづくりの拠点としての機能を担うような仕掛け作りなど「コミュニティカフェ」として発展させていくよう日々取り組みを行っています。

このたび、新たな「しごと」として、部落解放・人権研究所より、冊子



『ヒューマンライツ』の梱包・発送作業を委託していただきました。また各種研修会などのアンケート結果を集計する軽作業なども受託し、体力に不安があるがパソコンや事務的な作業が得意なメンバーなどを中心に、毎月の発送作業を行っています。

(おしごと興業合同会社 南田敬)

## ■ 研究所に来訪された海外研究者よりメッセージ

去る5月30日(土)、31日(日)に大阪で開催された衡平社史料研究会にご出席頂いた キム・ジュンソプ 金 仲 燮・韓国慶尚大学教授より金先生が取り組まれている研究内容の紹介と研究所に対する期待からなる原稿をご寄稿頂きました。

以下その内容を掲載します。



慶尚大学社会科学部社会学科教授  
人権社会発展研究所長

キム・ジュンソプ  
金 仲 燮

### 【私が研究している課題】

現在、私が進めている研究課題は大きく三つに分かれています。この三つは2011年の1年間、京都大学人文科学研究所に滞在し、収集した資料と研究の分析を通して本を出版する過程にあります。

一つは衡平社と水平社の歴史を比較し、論議するものです。これは1980年代初めから進めてきた韓国の衡平運動に関する個人的な研究を基盤に、日本の水平社運動との比較を扱った本として発刊する予定です。タイトルは「平等な社会を目指して：韓国の衡平社と日本の水平社の比較研究」（仮題）です。これは衡平社と水平社の活動を歴史社会的に比

較する研究になり、また、韓国に水平社運動の全般的な歴史を最初に紹介する本になるでしょう。

もう一つは、地域共同体の人権の実践を探求する研究です。地方自治体のレベルでの人権条例の制定、人権機構化、人権教育などを韓国と日本の事例を比較し論議します。この本では、全地球的なレベルや国家における人権保障と増進のための制度的装置を整えることと同じくらい、日常生活の現場である地域共同体での人権保障体制を構築することが重要であると主張しています。

韓国の事例としては、5・18民主化運動の歴史を持つ光州市と衡平運動の発祥地で市民団体が中心になって人権条例の制定を推進した晋州市のケースを扱っています。そして、日本の事例としては、部落解放運動の伝統がある大阪を中心に、広域自治体である大阪府、政令都市である堺市、人権の街づくりが活発な住吉地区の人権増進の活動を紹介します。

最後に、日本の研究者たちと共に発刊を準備している衡平社の史料集に載せる衡平運動の流れを扱った論文を執筆中です。これまで、衡平運動の研究は主に新

聞に報道された内容の分析を基礎にしてきましたが、日帝の植民地期に記録された朝鮮総督府などの官憲によって記録された衡平運動関連の史料を活用することができれば、これまでの衡平運動研究で不十分な部分が大きく補完されるものと判断されます。従って、衡平社史料研究会（韓日共同研究会）が中心に整理し発刊される史料集は、今後の衡平運動研究の地平を拡大するのに大きく寄与するものと期待されます。

### 【部落解放・人権研究所に対する期待】

人権保障や増進は今後、より重要な全世界的課題になると考えています。このような点で、部落解放・人権研究所が日本だけではなく、人類社会の人権保護や

人権増進のための機関として寄与できるものと期待しています。

また、人権増進のためには人権侵害をはじめとする全般的な人権現象に関する持続的な研究と改善方法の模索が重要です。すなわち、人権現象に対する分析と対案模索は別個のもののように見えますが、これは一緒に進めていかなければならないと考えます。このような点から、部落解放・人権研究所が研究と実践の増進の二つの目的を、共に遂行する機関として発展することを期待しています。

さまざまな困難な状況のなかでも絶え間なく発展してきた部落解放・人権研究所の40余年の歴史と伝統を今後も継続して繋いでいくことを願っています。

(日本語訳：高正子)

## 第15回 2015多民族共生人権研究集会

日 時	7月22日(水) 10時30分～16時45分
会 場	大阪市立東成区民センター
記念講演	演題 「ヘイトスピーチから考える多民族共生の現在」 講師 安田 浩一さん (フリージャーナリスト)
分科会 1	今だからこそ学びたい～植民地とは何だったのか
分科会 2	歴史が問いかける現在～戦後補償問題を考える
参加費	[一般] 4,000円 [学生・65歳以上・障がい者] 2,000円 ※参加費には資料代を含みます。
申込方法	7/15 (水) までに実行委員会事務局・多民族共生人権教育センターへご連絡ください。 (TEL.06-6715-6600 http://www.taminzoku.com)
主 催	第15回 2015多民族共生人権研究集会実行委員会 *研究所も加盟しています*

## 2015年は「同和对策審議会答申」50年

### 記念集会

#### 「同対審」答申50年 半世紀を経て生き続けるその精神と課題

日時 8月11日(火) 14時(開場13時30分)  
 会場 中之島中央公会堂 大阪市北区中之島1-1-27  
 記念講演 炭谷 茂さん(恩賜財団済生会理事長、元地域改善対策室長)  
 大賀正行さん(部落解放・人権研究所名誉理事、元部落解放同盟大阪府連書記長)  
 主催 同対審答申50周年記念集会実行委員会 \*研究所も加盟しています\*  
 申込連絡先 部落解放同盟大阪府連合会  
 TEL:06-6581-8535 FAX:06-6581-8536 Email:yamamura@hrn.gr.jp

### 連続学習会

#### 第2回「同対審」答申—その光と影

日時/7月25日(土) 13時30分～15時30分  
 会場/リパティおおさかホール  
 パネリスト/窪田享信さん(元矢田解放会館館長)・新居晴幸さん(元部落解放共闘議長・元大阪教組委員長)・向井正さん(元部落解放同盟大阪府連合会書記長・副委員長)・山中多美男さん(元部落解放同盟中央執行委員)  
 コーディネーター/塩谷幸子さん(部落解放同盟大阪府連合会副委員長)

#### 第3回 実際に行ってみよう！ バスで回るムラ巡り

日時/9月5日(土) 8時30分～17時30分  
 道祖本支部・荒本支部・樫井支部  
 定員/50名(申込締切6/30)  
 参加費/1,000円

#### 第4回 わいわい言ってみ！部落のこと。

日時/10月24日(土) 13時30分～15時30分  
 会場/堺市立人権ふれあいセンター  
 ファシリテーター/武田緑さん(一般社団法人コアプラス代表理事)  
 定員/90名(申込先着順)

#### 第5回 どうする？水平社100年 ～これから何をなすべきか～

日時/12月2日(水) 19時～21時  
 会場/HRCビル5階ホール  
 講師/赤井隆史さん(部落解放同盟大阪府連合会書記長)  
 (主催) 部落解放同盟大阪府連合会  
 部落解放大阪府民共闘会議  
 (問い合わせ先) 部落解放同盟大阪府連合会  
 TEL:06-6581-8535  
 FAX:06-6581-8536

### 大阪人権博物館 第70回特別展

#### 内閣「同和对策審議会答申」50年～部落差別をなくす半世紀の歩み～

日時 7月25日(土)～10月3日(土)  
 会場 大阪人権博物館特別展示室  
 主催 内閣「同和对策審議会答申」50年特別展制作委員会  
 \*研究所も加盟しています\*

## 参加者募集!! 2014.7～10 研究所カレンダー

- 7/18 第一研究部門(部落差別の調査研究)第7回公開講座 @大阪人権博物館  
 「阿波木偶「三番叟まわし」「箱廻し」調査事業で見えてきたもの」  
 辻本一英さん(芝原生活文化研究所代表)
- 7/28 第374回国際人権規約連続学習会 @エルおおさか709号室  
 「カナダ・トロントLGBTコミュニティ報告」塩谷九十九さん(G-FRONT関西)
- 8/19 第46回部落解放・人権夏期講座(～21) @高野山
- 8/27 第110期部落解放・人権大学講座開講式(～3/8) @HRCビル
- 9/19 第一研究部門(部落差別の調査研究)第8回公開講座 @大阪人権博物館
- 9/24 第375回国際人権規約連続学習会 @HRCビル5階ホール  
 「新潟水俣病にみる差別と偏見」  
 塚田真弘さん(新潟県立環境と人間のふれあい館(新潟水俣病資料館)館長)
- 9/30 第36回人権・同和问题企業啓発講座 第1部 @大阪国際会議場
- 9/30 第28回人権啓発東京講座開会式(～11/26) @松本治一郎記念会館
- 10/9 第5回人権マスコミ懇話会 @HRCビル
- 10/13 第36回人権・同和问题企業啓発講座 第2部 @大阪国際会議場
- 10/16 第376回国際人権規約連続学習会 @HRCビル5階ホール  
 「韓国の移民政策」宣元錫(ソン・ウォンソク)さん(中央大学兼任講師)
- 10/24 差別禁止法研究会公開シンポジウム @東京・全国町村会館

### お知らせ

くまがい・ちか

- 職員の熊谷愛さんが6月20日付で退職され、解放新聞社に移られました。これまでの研究所への貢献に感謝するとともに、今後のますますのご活躍を祈念します。
- 8月19日(水)～21日(金)の3日間、第46回部落解放・人権夏期講座開催に伴い、事務所を休業いたします。ご不便をおかけしますが、何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。

### 事務局便り

5月末に広島市の平和記念公園を訪れる機会がありました。学生時代以来、数十年ぶりの訪問です。新緑の季節、公園の自然はすばらしく、修学旅行の生徒のみなさんにガイドをしているピースボランティアのスタッフの方々には頭が下がりました。10代の時とはいろいろと見える風景が違っているのは歳をとった証拠でしょう。自分のなかにある平和への思いを見つめ直す時間にもなりました。訪問時に行った取材内容については『ヒューマンライツ』8月号にて掲載予定です。(KM)